

子どもの発達と保育をとらえる視点			
発達過程	ねらい	内容	配慮事項
①おおむね 6か月未満	○お腹がすき、乳(母乳・ミルク)を飲みたい時、飲みたいだけ ゆったりと飲む ○安定した人間関係の中で、乳を吸い、心地よい生活を送る	○よく遊び、よく眠る ○お腹がすいたら、泣く ○保育教諭にゆったり抱かれて、乳(母乳・ミルク)を飲む ○授乳してくれる人に関心を持つ	○一人一人の子どもの安定した生活のリズムを大切にしながら、心と体の発達を促すよう配慮する ○食欲と人間関係が密接な関係であることを踏まえ、愛情豊かな特定の大人との継続的で応答的な授乳中の関わりが子どもの人間への信頼、愛情の基盤となるよう配慮する ○お腹がすき、泣くことが生きていくことの欲求の表出につながることを踏まえ、食欲を育むよう配慮すること ○一人一人の子どもの発育・発達状態を適切に把握し、家庭との連携を取りながら、個人差に配慮すること
	○お腹がすき、乳を吸い、離乳食を喜んで食べ、心地よい生活を味わう ○いろいろな食べ物を見る、触る、味わう経験を通して自分で進んで食べようとする	○よく遊び、よく眠り、満足するまで乳を吸う ○お腹がすいたら、泣く、または、喃語によって、乳や食べ物を催促する ○いろいろな食べ物に関心を持ち、自分で進んで食べ物を持って食べようとする ○ゆったりとした雰囲気の中で、食べさせてくれる人に関心を持つ	○お腹がすき、乳や食べものを催促することが生きていくことの欲求の表出につながることを踏まえ、いろいろな食べ物に接する機会を持ち、食欲を育むようにする ○子どもの咀嚼や嚥下機能の発達に応じて、食品の種類、量、大きさ、固さなどの調理形態に配慮する ○一人ひとりの子どもの発達・発達状態を適切に把握し、家庭と連携をとりながら、個人差に配慮する ○食欲と人間関係が密接にあることを踏まえ、愛情豊かな特定の大人との継続的で応答的な授乳及び食事での関わりが子どもの人間への信頼、愛情の基盤となるよう配慮する
	○お腹がすき、食事を喜んで食べ、心地よい生活を味わう ○いろいろな食べものを見る、触る、噛んで味わう経験を通して自分で進んで食べようとする	○よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ ○いろいろな食べものに関心を持ち、手づかみ、または、スプーン、フォークなどを使って自分から意欲的にたべようとする ○食事の前後や汚れたときは、顔や手を拭き、きれいになった快さを感じる ○楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人に関心を持つ	○子どもが食べものに興味を持って自ら意欲的に食べようとする姿を受け止め、自立心の芽生えを尊重する ○食事のときには、一緒に噛むまねをして見せたりして、噛むことの大切さが身につくように配慮する。また、少しづつ色々なものに接することができるよう配慮すること ○子どもと一緒に食べたい人を見つけ、選ぶようする姿を受け止め、人への関心の広がりに配慮する ○清潔の習慣については、子どもの食べる意欲を損なわぬよう、一人一人の状態に応じて関わること
	○いろいろな種類の食べ物や料理を味わう ○食生活に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ ○保育教諭を仲立ちとして、友達とともに食事を進め、一緒に食べる楽しさを味わう	○よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ ○食べものに関心を持ち、自分で進んでスプーン、フォーク、箸などを使って食べようとする ○保育教諭の手助けによって、うがい、手洗いなど、身の回りを清潔にし、食生活に必要な活動を自分でする ○楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人、調理をする人に関心を持つ ○色々な食べものを進んで食べる ○身近な動植物を始め、自然現象をよく見たり、触れたりする ○保育教諭を仲立ちとして、友だちと共に食事を進めることの喜びを味わう	○食べものに興味を持ち自主的に食べようとする姿を尊重する。また、いろいろな食べ物に接することができるようにする ○自然や身近な事物などへの触れ合いにおいては、安全や衛生面に留意する。また、保育教諭がまず親しみや愛情を持って関わるようにして、子どもが自らしてみようと思う気持ちを大切に ○子どもと一緒に食べたい人を見つけ、選ぶようする姿を受け止め、人への関心の広がりに配慮すること。また、子ども同士のいざこざも多くなるので、保育教諭はお互いの気持ちを受容し、他の子どもとのかかわり方を知らせていく。 ○友達や大人とテーブルを囲んで、食事をすすめる雰囲気作りに配慮すること。また、楽しい食事のすすめ方を気づかせていく
④おおむね2歳	○できるだけ多くの種類の食べ物や料理を味わう ○自分で食事ができること、身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう ○食事に必要な基本的な習慣や態度を身につける ○調理に関心を持ち、簡単な調理を楽しむ ○身近な食材を使って、食べものの味の違いを知る ○大人と一緒に食事をし、会話を通して色々なことを学ぶ ○食べ物は口から食べて消化され、便となって体外へ排泄されることに気づく	○好きな食べ物をおいしく食べる ○様々な食べ物を進んで食べる ○健康な生活リズムを身につける ○身近な大人や友達とともに、食事をする喜びを味わう ○同じ料理を食べたり、分け合って食事することを喜ぶ ○身近な動植物に関心を持つ ○食習慣の基本を身につける ○良く噛んでしっかり飲み込むようにする ○食べ物と便との関係に興味と関心をもつ	○遊びや睡眠、排泄などの諸活動をバランスよく展開し、食欲が育まれるよう配慮する。 ○身近な動植物、また飼育・栽培物の中から保健・安全面に留意しつつ、食材につながるものを選び、積極的に食する他見を通して、自然と食事のつながりに気づくように配慮する ○食前、食後のあいさつをし、食前には手洗いを ○食具が上手に使え、よく噛んで食べるなどの基礎的な食習慣を身につけるように働きかける
	○健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける ○様々な人々と会食を通して愛情や信頼感を持つ ○栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみを持ち、全てのいのちを大切にすることを ○調理に積極的に関わりをもつ ○様々な伝統的な日本特有の食事を体験する ○様々な人々と会食を通して、愛情や信頼感を持つ	○慣れない食べ物や嫌いな食べ物にも挑戦する ○うがい、手洗いなど身の回りを清潔にし、食生活に必要な活動を自分でする ○食生活に必要なことを、友達とともに協力して進めて関わりを深め、思いやりの気持ちをもつ ○自分たちで野菜を育て、食材にも旬があることを知り季節感を感じる ○食事の際には、安全に気をつけて行動する ○食べものを通して日本の伝統と食文化に関心を持つ	○食習慣の形成に当たっては、子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもと関わりながら、主体的な活動を展開する中で身につくよう配慮する ○身近な動植物に関わって共感し合い、いのちを育む自然に感謝の気持ちをもてるよう、自ら関わろうとする意欲を大切にする ○調理する中で、様々な料理を通して素材に目をむけ、関心が養われるようにする ○年間行事や季節と関連させて、日本の伝統と食文化を伝えるように配慮する ○大人との信頼関係に支えられて、自分自身の生活を確立していくことが基盤となることを考慮する
⑤おおむね3歳	○健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける ○様々な人々と会食を通して愛情や信頼感を持つ ○栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみを持ち、全てのいのちを大切にすることを ○調理に積極的に関わりをもつ ○様々な伝統的な日本特有の食事を体験する ○様々な人々と会食を通して、愛情や信頼感を持つ	○健康と食べ物について関心を持つ ○肉、魚、卵、牛乳、豆、小麦粉など身近な動植物から色々な加工食品ができることを知り、自然の恵みに感謝の気持ちを持つ ○調理をしている人や地域の方々などに関心を持ち、感謝の気持ちを持つ ○挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける ○伝統的な食品加工に出会い、味わう ○野菜の収穫時期に気づき、自分たちで育てた野菜を食べる ○食材の色、形、香りなどに興味をもつ ○調理器具の使い方を学び、安全で衛生的な使用法を身につける	○健康と食べ物について関心を促すに当たっては、子どもの興味・関心を踏まえ、全職員が連携のもと、子どもの発達に応じた内容に配慮する ○様々な文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮する ○安全・衛生面に配慮しながら、扱いやすい食材、調理器具などを日常的に用意する ○食品や料理を通して五感が発達するよう創意工夫をする
	○健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける ○様々な人々と会食を通して愛情や信頼感を持つ ○栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみを持ち、全てのいのちを大切にすることを ○調理に積極的に関わりをもつ ○様々な伝統的な日本特有の食事を体験する ○様々な人々と会食を通して、愛情や信頼感を持つ	○健康と食べ物について関心を持つ ○肉、魚、卵、牛乳、豆、小麦粉など身近な動植物から色々な加工食品ができることを知り、自然の恵みに感謝の気持ちを持つ ○調理をしている人や地域の方々などに関心を持ち、感謝の気持ちを持つ ○挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける ○伝統的な食品加工に出会い、味わう ○野菜の収穫時期に気づき、自分たちで育てた野菜を食べる ○食材の色、形、香りなどに興味をもつ ○調理器具の使い方を学び、安全で衛生的な使用法を身につける	○健康と食べ物について関心を促すに当たっては、子どもの興味・関心を踏まえ、全職員が連携のもと、子どもの発達に応じた内容に配慮する ○様々な文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮する ○安全・衛生面に配慮しながら、扱いやすい食材、調理器具などを日常的に用意する ○食品や料理を通して五感が発達するよう創意工夫をする
⑥おおむね4歳	○健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける ○様々な人々と会食を通して愛情や信頼感を持つ ○栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみを持ち、全てのいのちを大切にすることを ○調理に積極的に関わりをもつ ○様々な伝統的な日本特有の食事を体験する ○様々な人々と会食を通して、愛情や信頼感を持つ	○健康と食べ物について関心を持つ ○肉、魚、卵、牛乳、豆、小麦粉など身近な動植物から色々な加工食品ができることを知り、自然の恵みに感謝の気持ちを持つ ○調理をしている人や地域の方々などに関心を持ち、感謝の気持ちを持つ ○挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける ○伝統的な食品加工に出会い、味わう ○野菜の収穫時期に気づき、自分たちで育てた野菜を食べる ○食材の色、形、香りなどに興味をもつ ○調理器具の使い方を学び、安全で衛生的な使用法を身につける	○健康と食べ物について関心を促すに当たっては、子どもの興味・関心を踏まえ、全職員が連携のもと、子どもの発達に応じた内容に配慮する ○様々な文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮する ○安全・衛生面に配慮しながら、扱いやすい食材、調理器具などを日常的に用意する ○食品や料理を通して五感が発達するよう創意工夫をする
	○健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける ○様々な人々と会食を通して愛情や信頼感を持つ ○栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみを持ち、全てのいのちを大切にすることを ○調理に積極的に関わりをもつ ○様々な伝統的な日本特有の食事を体験する ○様々な人々と会食を通して、愛情や信頼感を持つ	○健康と食べ物について関心を持つ ○肉、魚、卵、牛乳、豆、小麦粉など身近な動植物から色々な加工食品ができることを知り、自然の恵みに感謝の気持ちを持つ ○調理をしている人や地域の方々などに関心を持ち、感謝の気持ちを持つ ○挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける ○伝統的な食品加工に出会い、味わう ○野菜の収穫時期に気づき、自分たちで育てた野菜を食べる ○食材の色、形、香りなどに興味をもつ ○調理器具の使い方を学び、安全で衛生的な使用法を身につける	○健康と食べ物について関心を促すに当たっては、子どもの興味・関心を踏まえ、全職員が連携のもと、子どもの発達に応じた内容に配慮する ○様々な文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮する ○安全・衛生面に配慮しながら、扱いやすい食材、調理器具などを日常的に用意する ○食品や料理を通して五感が発達するよう創意工夫をする
⑦おおむね5歳	○健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける ○様々な人々と会食を通して愛情や信頼感を持つ ○栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみを持ち、全てのいのちを大切にすることを ○調理に積極的に関わりをもつ ○様々な伝統的な日本特有の食事を体験する ○様々な人々と会食を通して、愛情や信頼感を持つ	○健康と食べ物について関心を持つ ○肉、魚、卵、牛乳、豆、小麦粉など身近な動植物から色々な加工食品ができることを知り、自然の恵みに感謝の気持ちを持つ ○調理をしている人や地域の方々などに関心を持ち、感謝の気持ちを持つ ○挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける ○伝統的な食品加工に出会い、味わう ○野菜の収穫時期に気づき、自分たちで育てた野菜を食べる ○食材の色、形、香りなどに興味をもつ ○調理器具の使い方を学び、安全で衛生的な使用法を身につける	○健康と食べ物について関心を促すに当たっては、子どもの興味・関心を踏まえ、全職員が連携のもと、子どもの発達に応じた内容に配慮する ○様々な文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮する ○安全・衛生面に配慮しながら、扱いやすい食材、調理器具などを日常的に用意する ○食品や料理を通して五感が発達するよう創意工夫をする
	○健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける ○様々な人々と会食を通して愛情や信頼感を持つ ○栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみを持ち、全てのいのちを大切にすることを ○調理に積極的に関わりをもつ ○様々な伝統的な日本特有の食事を体験する ○様々な人々と会食を通して、愛情や信頼感を持つ	○健康と食べ物について関心を持つ ○肉、魚、卵、牛乳、豆、小麦粉など身近な動植物から色々な加工食品ができることを知り、自然の恵みに感謝の気持ちを持つ ○調理をしている人や地域の方々などに関心を持ち、感謝の気持ちを持つ ○挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける ○伝統的な食品加工に出会い、味わう ○野菜の収穫時期に気づき、自分たちで育てた野菜を食べる ○食材の色、形、香りなどに興味をもつ ○調理器具の使い方を学び、安全で衛生的な使用法を身につける	○健康と食べ物について関心を促すに当たっては、子どもの興味・関心を踏まえ、全職員が連携のもと、子どもの発達に応じた内容に配慮する ○様々な文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮する ○安全・衛生面に配慮しながら、扱いやすい食材、調理器具などを日常的に用意する ○食品や料理を通して五感が発達するよう創意工夫をする
⑧おおむね6歳	○健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける ○様々な人々と会食を通して愛情や信頼感を持つ ○栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみを持ち、全てのいのちを大切にすることを ○調理に積極的に関わりをもつ ○様々な伝統的な日本特有の食事を体験する ○様々な人々と会食を通して、愛情や信頼感を持つ	○健康と食べ物について関心を持つ ○肉、魚、卵、牛乳、豆、小麦粉など身近な動植物から色々な加工食品ができることを知り、自然の恵みに感謝の気持ちを持つ ○調理をしている人や地域の方々などに関心を持ち、感謝の気持ちを持つ ○挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける ○伝統的な食品加工に出会い、味わう ○野菜の収穫時期に気づき、自分たちで育てた野菜を食べる ○食材の色、形、香りなどに興味をもつ ○調理器具の使い方を学び、安全で衛生的な使用法を身につける	○健康と食べ物について関心を促すに当たっては、子どもの興味・関心を踏まえ、全職員が連携のもと、子どもの発達に応じた内容に配慮する ○様々な文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮する ○安全・衛生面に配慮しながら、扱いやすい食材、調理器具などを日常的に用意する ○食品や料理を通して五感が発達するよう創意工夫をする
	○健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける ○様々な人々と会食を通して愛情や信頼感を持つ ○栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみを持ち、全てのいのちを大切にすることを ○調理に積極的に関わりをもつ ○様々な伝統的な日本特有の食事を体験する ○様々な人々と会食を通して、愛情や信頼感を持つ	○健康と食べ物について関心を持つ ○肉、魚、卵、牛乳、豆、小麦粉など身近な動植物から色々な加工食品ができることを知り、自然の恵みに感謝の気持ちを持つ ○調理をしている人や地域の方々などに関心を持ち、感謝の気持ちを持つ ○挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける ○伝統的な食品加工に出会い、味わう ○野菜の収穫時期に気づき、自分たちで育てた野菜を食べる ○食材の色、形、香りなどに興味をもつ ○調理器具の使い方を学び、安全で衛生的な使用法を身につける	○健康と食べ物について関心を促すに当たっては、子どもの興味・関心を踏まえ、全職員が連携のもと、子どもの発達に応じた内容に配慮する ○様々な文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮する ○安全・衛生面に配慮しながら、扱いやすい食材、調理器具などを日常的に用意する ○食品や料理を通して五感が発達するよう創意工夫をする
備考	入園時、3才未満クラス児には離乳食チェック表を渡し、食の進みの相互理解と連携を行っていく。 アレルギー対応あり。		